

第十六回帝國議會
衆議院

海底電信線保護萬國聯合條約罰則法律案委員會會議錄(速記)第二回

會議

明治三十五年二月二十六日午前十一時開議

出席委員左ノ如シ

伊東 四郎君 鯨島 相政君 河口 善之助君
並河 理二郎君 今村 千代太君 多田 通君

出席政府委員左ノ如シ

逓信總務長官 淺田 德則君 逓信省通信局長 小松謙次郎君

○委員長鯨島相政君 是ヨリ本案ノ會議ヲ開キマス

○伊東四郎君 本案ニ附キマシテ、大體ノ說明ハ、先般本會ニ於テ承ッタデゴザイマスケレドモ、尙此際、政府委員ヨリ一應其御說明ヲ承リタイ

○政府委員小松謙次郎君 此海底電信線ノ保護萬國聯合條約云フハ、明治十七年ニ、初メテ佛蘭西ノ巴里デ聯合ノ諸國ガ集マリマシテ、此條約ヲ締結致シマシタ、ツレカラ日本ガ是ニ加盟致シマシタノハ、明治十八年ノ七月デア

リマス、其當時此條約ノ第十二條ニ基イテ、同時ニ罰則ヲ制定致シマシタガ、即チ現行ノ海底電信線保護萬國聯合條約罰則ト稱スルノデアリマス、ツレカラ其施行ノ期日ハ其當時追テト云フコトニナッテ居テ、其後明治二十一年五月ヨリ、條約モ罰則モ施行スルト云フコトハ、勅令ヲ以テ公布サレデアリマス、

其後此罰則ニ於キマシテ、幸ヒニ今マデ之ヲ適用スル機會ガナカッタ、今日マデ參リマシタノデゴザイマス、所ガ此罰則ノ更正ヲ御覽ニナリマス分リマ

スガ、主トシテ刑法並ニ其當時現在致シテ居ッタ電信條例ヲ元トシテ、罰則ガ立テ、アリマス、所ガ此電信條例ハ明治三十二年ノ議會ニ於テ、電信法ト云

フガ可決ニナッテ、三十三年十月カラ電信條例ハ廢止サレタ、其當時此罰則モ改正致サンケレハナラヌ譯デアリマシタ所、ツヒ手廻リ兼ネテ今日マデ參リ

マシタ、詰リ現行ノ罰則ノ或條項ハ、電信條例ノ廢止サレタ、メニ、適用ノ法

條ヲ失ッタ形ニナッテ居リマス、ソコデ今般此法案ヲ提出シテ、其點ヲ補フト

同時ニ、現行罰則ハ餘程法律ナドノ完備シナカッタ時分ニ出來タノデ、各條ノ

中ニハ其後ノ改正ヤ其他ノタメニ、不必要ニナッタ箇條モアリマス、即チ第六

條ノヤウナ類デアリマス、ツレカラ現行罰則ハ其當時ノ電信條例ヲ、重ニ元

トシテ立デタモノデアアル如ク、矢張方今ノ電信法ヲ主トシテ、適用スルコト

ノ出來ルヤウニシタイト云フ考ヲ以テ、此法條ノ規定ハ電信法ノ是ニ相當ス

ル條項ヲ適用スルコトニ致シマシタノデアリマス、ツレデ唯電信法ニ據ルト

カ、若ハ刑法ニ據ルトカ云フ文句ヲ殊更ニ取ッテ、何年以下ノ禁錮トカ、何圓以

下ノ罰金ト云フコトニシテ、他ノ法條ヲ引用セヌヤウニシタノハ、此罰則ノ精

神ニ附イデハ、改正スル程ノ必要ナキモ、電信條例ノ廢止ノタメ、已ムヲ得ズ改正シナケレバナラヌト云フヤウナ關係ヲ惹起シテ、他ノ法律若クハ變更ト

共ニ、此法モ改正又ハ變更スル混雜ヲ生ズルモ、面白クナイト云フコトデ、罰金禁錮ノ規定ヲ極メタノデアリマス、尙各條ニ附イテノ說明ハ、御質問アレ

バ申上ゲマス

○今村千代太君 第二條ニ何等ノ場合ヲ問ハズ云々トアル、舊法ニハ疎虞懈

怠ニ據リト云フヤウニナッテ居ル、所デ此改正罰則ヨリ論ジテ見レバ、故意ニ

切斷破損ヲシタトキハ、二十四時間以内ニ届出テネバナラヌト云フコトニナッ

テ居ル、實際カラ云ヘバ故意ニシタモノガ届出ハシマイト思フケレドモ、届

出ナイトキハ、二重ニ罰金ニ處セラレルト云フ結果ニナリハセムカト思フ

ガ、如何デス

○政府委員小松謙次郎君 罪トシテハ別ノ罪ヲ構成スルト云フ考デ居リマ

ス、故意若ハ過失ニモセヨ、免ニ角海底電信線ヲ切斷若ハ破損シタト云フ罪ガ

一ツ、ツレカラ又ツレヲ届出ナカッタ罪ガ一ツト、罪ガ二ツニナルト云フ考デ

居リマス、併シ實際適用ヲ致シマス上ニ附イデハ、二ツ場合ガ起リマシタトキ

ニハ、何レカ重イ罪ニ、是ハ適用サレルコトニナルダラウト考ヘマス

○伊東四郎君 政府委員ニ質問致シマスガ、此萬國條約海底電信ニ關スル章

ニ、此二條ノ二項ニ上ゲテゴザイマス、海底ノ電信ヲ破損ヲ退クルガタメ

ニ、精々ノ注意ヲ加ヘテ致スモ、風波ノタメニ、自己ノ生命ヲ保ツコトガ能

ハヌト、サウ云フ場合ニハ止ムヲ得ズ切斷シタモノハ、此條項ヲ適用セザル

モノトアリマス、本案ニハツレ等ノ危險ナ場合ヲ、許ルスベキ條項ハ見ヘナ

イヤウニ思ヒマスルガ、此一條ノ一項ニ過失ニ因リ云々ト云フテ、五十圓

以下ノ罰金ニ處ストアリマスルガ是ニ當テ、アルモノデアアルカ否ヤト云フコ

トヲ、一ツ承リタイ

○政府委員小松謙次郎君 之ハ此間本會デモ、御尋ネガアリマシタト考ヘ

テ居リマスガ、此第一條デ罰シヤウト云フコトヲ規定シテ居リマスノハ、此

不可抗力トカ若クバ正當防衛トカ、其他刑法ノ總則ニ依ッテ罪ヲ受ケナイヤ

ウナ場合ニハ、固ヨリ適用スル考ハナイノデアリマス、詰リ第一條ハ、一項ノ

方ハ故意ニ致シタ場合ヲ指定シテ居リマス、ツレカラ第二項ハ損傷シテ過失

ト云フコトハ、之ハ書キマシタノデアリマス、詰リ不可抗力ニ依リマスモノ

デアリマストカ、若タバ此自分ノ防衛ヲスルタメニ致シタモノデアルトカ、

罪ヲ犯スノ意ナクシテヤリマシタ場合ト云フモノハ、刑法ノ一般ノ總則ノ中

ニ於テ、既ニツレ等ノ行爲ハ取除ケサレデアリマス

○伊東四郎君 尙モウ一ツ御尋ネ致シマスルガ、先刻ノ御說明ニ依リマス

ト、之ハ刑法處罰ヲ之ニ見ズシテ、特ニ此海底電信條例ト云フモノヲ設クル

ヤウニ承ッテ居リマス、スレバ此條約ニ是ダケノアマリガアリマスルニモ拘ラ

ズ、本案ニハ其許ルシガナイトシテ見ルト云フト、ツレダケハ我國ハ罰ヲ、

嚴ニ設ケマシタ感ガアリマスルノデゴザイマス

○政府委員小松謙次郎君 ソレハ先程ノ説明ヲ致シマス際ニ、能ク申上ゲナカッタカラ、サウ云フ質問ヲ受クル譯デアラウト考ヘテ居リマス、詰リ是ノ刑法若クハ其電信法等ノ改正ニモ抱ハラズ、此法律ガ活キテ行クヤウニト申上ゲタノハ、例令舊罰則ノ第一條ニアリマスル、刑法百六十四條ト云フ文句ガ書イテアル、同シク第四章五十九條ノ第二項ト云フコトガ書イテアル、電信條例ノ五十九條ガナクナッタメニ、是等ノ法案ヲ來タスト云フ譯デアアルカラ、其各條ヲ指シテ申上ゲタノデ、刑法ノ總則ハ如何ナル刑罰デアリマシテモ、苟クモ取除ケノナイ以上ハ、モウ總テ刑罰ニ適用サレル譯デアリマスカラ、唯今御問ヒノ如キ、不可抗力ニ依ルモノトカ、此止ムヲ得ズシテ致シマシタ方ノモノニハ、適用ヲサレナイ譯デアリマス

○今村千代太君 モウ一ツ御尋致シタウゴザリマスガ、第三條ニ條約第五條第一項トゴザイマスガ、此條約第一項ヲ見テ見レバ、政府ハ敷設修繕ヲセサル所ノ船舶ヲ規定シテアルヤウデスガ、政府ガ命ジテ修繕サセサル所ノ船舶ガ、信號トカ何トカ云フモノヲ掲ゲヌトキニハ、矢張此罰金ヲ附加スルコトニナツテ居リマスガ、政府ガ命ジタモノハ、政府ノ船デアラウト考ヘマスガ

○政府委員(小松謙次郎君) 御答ヲ致シマス、之ハ斯ウ云フ敷設又ハ修繕ヲ要スル船舶ニ對シテハ、此信號規則ガ其出來テ居リマスノデ、其信號規則ヲ船舶ハ遵奉シナケレバナラヌト云フ、之ハ規定デアリマスルデアリマスカラ、詰リ此信號規則ヲ遵奉致シマセヌト、普通ノ船員法ナリ何ナリニ基イテ、船長ガ詰リ罰セラル、譯ニナリマス、此信號規則ト云フモノハ、海上衝突豫防規則ニ其條項ガアリマシテ、ドウ云ウ信號ヲヤルト云フ、其信號ノ規定ハ制定サレテ居リマス

○委員長鯨島相政君 私カラ質問ヲ致シマスルガ、私ハ此本案ノ表題ニ附イテ、御尋致シタイノデアリマス、此表題ニ依リマスルト、海底電信線法モ萬國聯合條約法律案ト、斯ウナツテ居リマスルガ、若シ之ガ此今通過致シマスルト云フト、其案ト云フ字ダケガナクナツテシマウノデ、矢張罰則法律ト斯ウナツテ行クモノダラウト思ヒマスガ、是デ御差支ハナイ積リデアリマスカト云フコトト、ソレカラモウ一ハ、ソレデ御差支ガナイト云フコトデアリマスルナレバ、此罰則ト云フコトト、法律ト云フコトヲ、政府者ハ如何ニ御見解ニナツテ居ルカ、吾々ハ罰則ハ即チ法律ノ中ニ包含セラルベキ、即チ單ニ罰則ト云フデモ、法律ト意味スル場合モアル致シマスルカラシテ、此儘之ガ通過シマスルト、罰則、罰則ト斯ウ云フコトニモナル、又ハ法律、法律ト、斯ウ云フコトニモナツテ、如何ニモ此表題ガ不穩當ナヤウニ見受ケラレマスルト云フコトト、ソレカラモウ一ツハ、全條此法律案ハ改正法律案ニ、性質上違ヒハナイト認メテ居ルト云フモノハ、此理由書ニモ本罰則モ又之ヲ改正スルノ必要ヲ生ゼリト、立派ニ記載シテアリマスル、然ルニ此表題ニ依リテ見ルト、罰則法律案ト、斯ウナツテ居テ、改正ト云フ文字ガ見ヘテ居ラヌノデアアル、或ハ之ニ

就キマシテハ、根本的ニ全部改正ヲスルノデアアルカラ、殆ド法律ノ制定ニ均シキモノデアアルカラ、改正ト云フ字ヲ使ハナカッタノデアルト云フコトデアアルカ、知レマセヌケレドモ斯ク申シマスルト、此刑法改正案ナドヲ見マスルト刑法モ勿論根本的ノ此度ノハ改正ニナツテ居リマスケレドモ、矢張改正案トシテ議會ニハ提出サレテ居ルノニ、根本的ノ改正ヲスルガ故ニ、殆ド制定ト均シキモノデアアルカラ、改正案トシナカッタト云フコトノ道理ハ、少シ立チカ子ハシマイカト信ジマスガ、ソレ等ノコトハ、ドウ云フ所カラ斯ウ云フ風ニナツタノデアリマスガ

○政府委員小松謙次郎君 御答ヲ致シマス、是ハ詰リ法律ノ名前ハ罰則マデモアルノデ、此本案ノ方ニ、海底電信萬國聯合條約罰則ト云フコトガ書イテアリマス、法律案デアリマスカラ、其上ニ法律案ガ出來タモノト考ヘマス、罰則第一條ノシマヒノ所ニアリマス、是ガ通過シマスレバ罰則ト云フ名前デ出マス、ソレカラ何故改正ト云フ字ヲ、附ケヌデ置クカト云フコトデアリマシタガ、是ハ全部ノ改正ニ涉ルノデ、總テ今迄ノ何罰則中改正トカ、改正何罰則トカ云フ字ヲ用井マスト、違ヒマシテ、唯今御話ノ如クニ、全部ノ改正デアアルカラ、前ノハ全然廢止シテ、新タニ此罰則ヲ立テルト云フ立テ方デアリマスカラ、改正ト云フ二字ヲ用井ナカッタ譯デアリマス、從來例ハイロノアルヤウニ記臆致シテ居リマス

○委員長鯨島相政君 然ラバ此理由書ニ本罰則モ、亦之ヲ改正スルノ必要ヲ生ゼリトナツテ居ルノミナラズ、縱令根本的ノ改正デアツテモ、改正ハ改正ニ違ヒナイト云フノハ、現ニ現行罰則ト云フモノハ活キテ居ルノデアアル、マダ殺シナイノデアアツテ、活キテ居ルモノニ修正若クハ改正ヲスルト云フナラバ、名稱ハ總テナケレハ、不穩當デアアル、又唯今政府委員ノ御答辯ノ趣意デアレバ、何故ニ理由書ニ改正スルノ必要アリト云フコトヲ、明言サレテ居ルノデアアルカ、モウ少シソレヲ御尋ネ申シテ置キマス、矢張罰則改正法律案ト、斯ウナラナケレハ理由書トノ鈞合モ取レズ、又此改正法律案トシテノ名稱ガ不穩當デアルト感ジカアリマスガ、矢張前ニ御述ベニナツタ通りノ趣意デアリマスガ

○政府委員 小松謙次郎君 御答致シマスガ、免ニ角理由書ニ書イタノハ、事ノ實際カラ申出シタ譯デアリマシテ、法案自躰ト致シマシテハ、別ニ差支ナイ考デアリマス、或ハ此罰則ノ改正法律案ト致シマシテモ、矢張意味ハ同ジコト、考ヘテ居リマス、ソレハ或ハ宜カッタラウト考ヘマスガ、要スルニ此表題ハ議ニ掛ケマスマデノ表題デアリマシテ、詰リ此罰則ガ議事ニ附セラレ譯デアリマスカラ、是ニ於テ餘リ差支ガナケレバ宜カラウト考ヘテ居リマス、今マデ斯ウ云フ例ハアルヤウニ記臆致シテ居リマス

○委員長鯨島相政君 更ニ他ノ點ニ附イテ御尋ネ致シマスガ、此ノ如キ犯罪ハ如何ナル場合ニ起ルモノデアリマスガ、其犯罪ノ場合ト、其犯罪ノ方法デ

アリマスガ、一向は普通犯罪ノ場合トハ違ッテ、是ハ特殊ノ犯罪デアッテ、素人ニハ了解シ難イ犯罪デアリマスガ、其方法ト場合ハ大抵如何ナル風ニシテ成立ツモノデアリマスカ

○政府委員小松謙次郎君 御答ヲ致シマスガ、先程申シタ如クニ、此罰則ノ制定以來今日ニ至ル迄、幸ニ斯ウ云フ場合ハ曾テナカッタデアリマス、ソレデ詰リドウ云フ具合ニシテ、起ルダラウト云フコトデアリマス、今迄ノ事實ニ就イテハ、ドウ云ッテ申上ルヤウナ事柄モナカッタデアリマス、詰リ誰カ悪イ船長デモアッテ、何カ通信デモ杜絶スルコトカ何ト云フ考ヲ起シテヤルト云フヤウナノガ、故意ノ場合デアラウト思ヒマス、過失ニ附イテハ、随分有勝ノコト、考ヘマス、或ハ告示シテアルニモ拘ハラズ、錯下シテ間違ッテヤルトカ何ト云フヤウナコトハ、随分アリサウニ思ハレルノデス

○委員長鯨島相政君 其犯罪ノ方法ト云フノハ、ソレヲ御尋ネ申シタノデアリマセヌガ、成程今迄一件モ犯罪ハナカッタ云フノハ、誠ニ結構ナコトデアルケレドモ、發案者ガ此ノ如キ罰則ヲ設ケラル、以上ハ、故意ノ場合ニハ如何ナル方法ヲ以テ、此罪ヲ犯シ得ラル、モノデアルカ、過失ノ場合ニハ斯カル過失ヨリ、此ノ如キ事ヲ爲シ得ラルベキモノデアルト云フ、其場合デアリマス、例ヘバ此船ノドノ部分デ、海底電線ヲ妨害シ得ルモノデアルカ、過失デアレ、故意デアレ、犯罪ノ方法ハドウ云フコトヲシテ、海底ニアル電線ヲ切斷若バ破損スルコトガ、出來得ベキモノデアルト云フ、其邊ノコトヲ伺ヒマス

○政府委員小松謙次郎君 故意デアリマスルト、錯下シ若ハ搜索機ヲ用井テ、海底電線ノ引張ッテアルノヲ引揚ゲタリ、若バ引揚ゲル前ニ切ツタリ致シマス、過失ノ場合ハ漁業デアリマスルトカ、先ヅ例ヘバ此錯下シ損ナッテ、海底線ニ引掛ケタト云フヤウナ場合ガ、起リ得ルダラウト考ヘテ居リマス

○委員長鯨島相政君 此度ハ第二條ニ附イテ、御尋ネ致シマスガ、此第二條ノ場合ニ於テ、錯誤懈怠ノ場合ノコトハ、今村君カラ質問應答ガアリマシデ、略々了解ハ致シテ居リマスルガ、政府委員ノ御答デハ、矢張茲デ第一條第一項ヲ侵シタ場合ニモ、第二條ノ如ク二十四時間内ニ居出サセ、若シ居出ヲシナイトキハ、第二條第二項ニ依ッテ二十圓以上ノ罰金ニ處スルト云フ別罪デアル、併シ實際之ヲ應用スルトキハ、數罪俱發ニ依ッテ、重イ方ヲ罰スルダラウト、斯ウ云フ御答辯ノヤウデスガ、其邊ハ少シ議論ニ互ルヤウデアリマスガ、別罪ヲナスト云フ點ニ於テ疑ガアリマスカラ、御尋ネ致シマス、普通ノ犯罪ノ場合ニハ、被告ハ過失デアレ、故意デアレ、自分ノ罪跡ヲ隠蔽スル權利ヲ有ッテ居ル、是ハ法律ガ與ヘテアル、此場合ハ過失罪デアレ、故意罪デアレ、自己ノ罪跡ヲ隠蔽スルト云フ辯護權ヲ、法律ガ被告人ニ與ヘテアル、現ニ其例ヲ見マスルト、刑法ノ第一百五十一條、第一百五十二條ノ罪デアル

是ハ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒又ハ監視ニ附セラレタル者ナルコトヲ知ッテ藏匿シ、若クハ隱蔽セシメタルモノハ、云々トナッテ、居リマスガ、是等ノ罪デアッ

テモ、其犯罪人若クハ逃走ノ囚徒及監視ニ附セラレタモノデアッテモ、親族ガ是ヲヤツタ場合ニハ、罪トナラヌコトニナッテ居ル、被告人ガ逃ゲ隠レルノハ、勿論當然デアッテ、被告事件ニ附イテ自分ノ罪ヲ通レムタメニハ有ラユル手段ヲ用井テ、辯護スルコトガ出來ル、例ヘバ證人ヲ拵ヘテ、買ッタト云フコトヲ證言シテ、自分ノ利益ニナルヤウニ證言ヲシテ貫ヒ、虚偽ノ證言ヲナサシメテモ、被告人ハ教唆罪トシテ處分ヲ受ケヌコトニナッテ居リマス、之ニ反シテ被害者ハドウデアアルカト云フト、唯ニ刑事訴訟法ニ依リマシテ、告訴ヲナスコトヲ得ト云フコトニナッテ居ッテ、必ズシモ告訴ヲシナケレバナラヌト云フ義務ハ、被告人スラ負フテ居ナイノデアアル、又豫審判事ハ被告人ニ對シテ罪情ヲ明白セシムルタメニ、脅喝詐言ヲ用井ルコトヲ得ズトナッテ居ル、是等ハ何ウ云フ點カラ生レタカト云フト、先キニ申シタ被告人ハ自己ノ犯罪ヲ隱匿スル權利ガアル故ニ、斯ノ如キ規定ニナッテ居ルコト、信ジテ居ル、矢張此法案ノ第一條ノ罪ヲ犯シタ者モ、刑事ノ被告人ニ違ヒナイノデアアル、單ニ此海底電信線保護萬國聯合條約附屬法モ、其罪ヲ犯シタ者ニ限ッテ、一般ノ法律規定ニ異ナル嚴重ナル方法ヲ設ケテ、サウシテ其自己ノ惡ルイコトヲシタコトヲ、二十四時間内ニ居出ヲセヨ、居出ヲシナケレバ罰スルゾト云フコトハ法理上カラ論ジテモ、實際ノ狀況カラ論ジテモ、甚ダ不穩當ナルヤウニ考ヘテ居リマス、殊ニ此現行法ニ於テハ、自己懈怠ノ場合ノミ居出ヲサセル、ソレカラ不當デアル、故意デアラウガ、懈怠デアラウガ、其犯罪ノ發覺シナイヤウニ、隱蔽スルト云フコトハ人情デアアル、況ヤ此ノ如キ重大ナル義務ヲ被告

人ニ負ハシムルニ至ッテハ、ドウシテ了解致シ難イノデアリマスガ、何カ是ハ聯合國ノ罰則ノ中ニデモ、斯ルコトガアッテ、好イ立法例デアアルカラ之ヲ真似テヤラウト云フ所カラ、此ノ如キ立案ヲセラレタモノデゴザリマスガ、或ハ全ク遞信省ノ御發明デアリマセウカト云フコトハ、モウ一ツハ第一條ノ第一項第二項ノ犯罪デアリマスガ、此犯罪ヲ搜查スルモノニハ、困難ナモノデアリマスガ、又ハ容易ナモノデアルト云フコトヲ、御尋致シマス

○政府委員小松謙次郎君 御答ヲ致シマス、唯今ノ居出ヲ命ジテ、其居出ヲナサヌ者ヲ罰スルト云フノハ、如何ニモ普通ノ刑法ノ例カラ見テ、甚ダ酷デナイカト云フ御話デアリマス、ソレハ重モニ船舶ニ關シタ犯罪ナリ、其他此海上ニ起リマス事柄ハ、唯今最後ニ御尋ニナリマシタ如ク、ナカノノ解リ兼ヌルノデアリマス、ソコデ現ニ御承知ノ如ク、船員法即チ商法ノ規定ナドヲ受ケテ出來テ居リマス、此船員法アタリデ、船長ノ義務トカ責任トカ言ウモノヲ、段々規定シテアリマス、其等ノ場合ニモ此海上ニ起ツタ事柄ハ、一々最初到着シタ場所ハ、必ズ報告ヲシナケレバナラヌ規定ニナッテ居ル、其報告ヲ致サヌ者ハ、矢張罰セラル、コトニナッテ居リマス、其報告スベキ事柄ガ、一ノ犯罪ヲ構成スルニモ拘ラズ、矢張船長ニ對シテ特別ノ命令ガ下ッテアリマス、此海底電線ヲ故意デアリマシタ場合ナドニハ、想フニ居出ル者ガナカウト考ヘマスガ、過ッテヤリマシタ時、又ハ全ク不可抗力ノタメニ已ムヲ得ズヤツタト

シタ場合ニハ、即チ此海上ニ起ッタ一ツノ事柄デアリマスカラ、其事ヲ最初到着シタ所ノ官廳ヘ届出サセルト云フコトハ、必要ナコト、思ヒマス、立法例モサウ云フノガ澤山アリマス、外國ニモアルカト云フ御尋ネニ對シテハ、現ニ佛蘭西デ立ッテ罰則ニ届出ヲ要セシメ、届出ヲセザル者ニ對シテハ、罰金ヲ科スルト云フコトニナッテ居リマス、其他ニ例モアリマス、詰リ船舶ニハサウ云フ義務ヲ負擔サセルコトガ、能クアルノデス、チヨット一例ヲ申シマスルト、船員法ノ十七條デアリマスガ「左ノ場合ニハ船長ハ最初到着シタル港ノ管海官衙ニ出頭シテ報告ヲ發スルコトヲ要ス」トアッテ「豫定ノ航路ヲ變更シタル時」人命又ハ船舶ヲ救ヒタル時「衝突其他ノ海難ガ生ジタル時」ト云フコトガアリマシテ、其報告ヲ怠ッタ者ニ對シテハ、罰例ガアル、又救助ヲシナカッタ者ニモ罰例ガアリマス、サウ云フ罰例ハ澤山アリマス、又最初ノ御尋ネデ、斯ウ云フ事ガ分リ易イカト云フ御尋ネデアリマスガ、損傷ノ有無ハ分リマスガ、ドウ云フコトニ附イテ起ッタカト云フコトハ、是ハ海上デ起ッタ事柄デスカラ、隨分分リ惡クイ事柄デアリマス、旁々届出ノ義務ヲ負擔サセル譯ニナッテ居リマス

○委員長駿島相政君 犯罪捜査ガ困難ナルモノデアルカラ、届出ヲサセルヤウニシテ置カナケレバ、困難デアルト云フ御話デアリマスガ、捜査ガ困難ナモノデアリマシタナラバ、却ッテ隠蔽スルモノガ殖ヘヤウト思フ、知レ、バ第一條デ罰セラル、知レナケレバ第一條第六條共免ル、カラ、隠蔽サレルナレバ隠蔽シヤウト云フノデ、隠蔽スレバ何ンニモナラヌコトニナル、犯罪捜査ガ易イナラバ、普通ノ立法例ニ反對シテ迄モ、届出ヲサセナケレバナラヌ必要ガナクナッテ來ル、ソレハ何ゼナレバ、犯罪捜査ガ容易ナレバ、届出ヲシナクッテモ宜イガ捜査ガ困難ナル所ヘ持ッテ來テ、届出ヲシナケレバ罰スルゾト云ヘバ益々困難ニナッテ來テ、到底第二條ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイコトニナリハスマイカ、夫レヨリ矢張普通刑法ノ趣意ト同ジク、殆ンド是ハ犯罪ノ自首デスカラ、其自首ヲ致シタモノハ、第一條ノ罪ヨリ一等カニ等ヲ減ズルカラ、正直ノ届出ヲシロト云フ方ガ、却ッテ當局者ノ目的ヲ達スルニ宜クハナイカト思ヒマスガ、此點ニ附イテハ如何デスカ

○政府委員小松謙次郎君 船長ガ初メテ到着シタル以上ニハ、管海官廳ト普通通申シテ居リマスガ、外國ハ領事館、日本デハ所謂海事ノ官廳デアリマス、普通通ナレバソレニ總テノ事柄ハ届出ルガ、船員法デ船長ノ義務ニ屬シテ居ルガ、此案ノ如ク斯ウ云フコトヲ、船員法デ届出サセルト云フコトハナイ、故ニ追加シタ譯デ、海上ニ起ッタ事柄ハ、絶ヘズ附イテ居ナケレバ分リマセヌカラ、船長ニハ特別ノ義務ヲ絶ヘズ命ジテアリマス、即チソレノ一ツノ條項ノ追加ト、殆ド同ジ結果ニナッテ居ル、若シ之ヲ自首ト同ジヤウニスルト、普通ノ場合ニハ斯ウ云フ殆ド是ト似タ様ナ場合ニハ、當然届出ヲシナケレバナラヌモノガ、自首ニナッテ大變取締リノ上ニ於テ、不都合ヲ生ズルダラウト思フノデアリマス

○委員長駿島相政君 先刻政府委員ノ例ヲ引カレタ、船員法ノ第十七條モ、矢張船長ニ報告サセルコトニナッテ居ルト云フコトデ、例ヲ引カレテ居リマスガ、此第十七條ニ書イテアル事柄ノ如キハ、船長ニハ何ニモ犯罪ノ廉ハナイノデアッテ、無論船長トシテ十七條ノ第一ノ豫定航路ヲ變更シタト云フノモ、故意ヲ以テ變更シタノデナグ、或ハ天災事變其他風波ノタメニ、變更シタ場合モアリマセウシ、其他此船員法ノ十七條ニ列舉シテアル條項ノ如キハ、無論船長ノ義務トシテ、届出サセルハ當然デアリマスガ、本案ノ第一條ハ、即チ故意ヲ以テ萬國聯合條約ニ依ル海底電信線ヲ切斷又ハ破損シタ場合デアリマス、之ヲ犯スニハ海賊ノヤウナ所爲ヲスルモノカ、何ニカ其目的デスルモノデナケレバ、故意ヲ以テスル答ハナイ、其者ニ對シテ即チ故意ノ犯罪者ニ向ッテ、サウシテ届出ヲシロト云フコトハ、ドウシテモ了解ガ出來兼ネルノデアリマス、普通ノ船長ノ職務トシテ、届出ヲサセル場合トハ、大ニ場合ガ違フ、過失ノ場合ナレバ兎ニ角、故意ヲ以テシタ者ニ届出ヲシナケレバナラヌ義務ヲ負ハセルト云フコトハ、ドウシテモ其目的ヲ達スルコトハ出來ヌト思ヒマスカラ、質問デアリマセヌガ、一應此事ヲ述ベテ置キマス

○政府委員小松謙次郎君 唯今ノハ御質問デアリマセヌカラ、御答デアリマセヌガ、尙補充ヲシテ置キタイデアリマス、是等ノ行爲ノ中ニ、船長ノ罪トナル事柄ガ、澤山矢張同時ニアリマスルノデス、ソレカラ届出ヲ成ルベクサセルヤウニ仕組ミマシタ所以ト云フモノハ、唯今申上ゲマシタ如クニ、海上ノ或事柄ト云フモノハ、分リ惡イモノガ多イノデアリマス、兎ニ角萬國共通ノ海底電信デアリマスカラ、其事柄ヲ早ク知り得ルヤウニシタイ考ノタメニ、詰リ此條項ヲ設ケマシタ譯デアリマス、懲罰ノ結果デ届出ルヤウニサセルカ、又ハ普通一個人ナドノ例ニ依ッテ、自首輕減ト云フヤウナ形デ遣ルカト云フコトハ、是ハ矢張見ル所ノ違フ點デアラウト思ヒマスルガ、之ヲ罰セナイト云フコトニナルト、普通ノ海上ニ起ッタ船長ノ職務ノ關係ナド、相照ラシ合セテ、其權衡ヲ得ヌ恐ガアルノデ、罰スルヤウニ致シマシタ、其點ヲチヨット申上ゲテ置キマス

○並河理二郎君 先刻以來承ハルト云フト、二様ニ解釋ガ出來ルノデ、チヨット斯ウ云フヤウニナルト考ヘマスガ、第一條ノ二項ノ罪ヲ犯シタ罪、ソレカラ第二條ノ届出ヲ怠ッタモノハ、二十圓以下ノ罰金ニ處スト云フノト、ソレカラ別ニ船長ノ義務トシテ届出ヲ怠ッタ時ノ罪、ソレハ罰則カ何ニカ知レマセヌガソレヲ罰スルノ罪ト、斯ウスルト云フト、一ノ事件ニ附イテ、三ツノ罪ヲ犯スヤウニ考ヘル、サウシテ第二條ノ御説明ニ依ッテ見マスルト、第二條ノ中ノ二十圓以下ノ罰金ハ兎ニ角、其事柄ヲ早ク知ラシムルト云フ目的ノヤウデアリマス、然ルニ此三罪俱發ノトキ、一ツノ重キニ依ッテ處斷スルト云フコトニナルト、詰リ重キニ依ッテ罰スルト云フノデスカラ、此二條ノ一項ノ目的ハ、消滅スルヤウニ考ヘルガ、是ハドウ云フ御趣意デアリマスカ

○政府委員小松謙次郎君 此第一條ニ於テ、罪トナリ得ル場合ハ二ツヨリ外

○多田通君 諸君ノ御尋ネデ大概了解致シマシタガ、此第一條第二條ノ行爲ヲ以テヤリ、又過失ニ依ッテ罪ヲ犯シ、或ハ正當ノ目的ニ依ッテ、止ムヲ得ズ切斷ヲシタト云フヤウナコトハ、總テ唯今ノ政府委員カラノ御答モアリマシタガ、事實ニ於テナイト云フヤウナコトハ、此罰則ガアリマシテカラ以降、事實ニ於テ總テ此點ニ於テナイノデゴザイマセウカ、追々此海底電信ヲ切斷シタヤウナコトモアルヤウデゴザイマス、此等ノコトハ、ドンナ原因ニ依ッテ致スヤウナ譯デアリマスカ

○政府委員小松謙次郎君 御答ヲ致シマス、詰リ此罰則ノ二十一年五月實施セラレテ以來、此罰則ニ依ッテ刑ヲ受ケタ者ハ、今マデ幸ニナカッタト云フ事柄ヲ申上ゲマシタ、ソレカラ今マデ海底線ノ時々不通ニナリマシタ、イロイロ致ス關係ノアリマシタノハ、是ハ重ニ其海底自身が腐蝕致シマシタトカ、若ハ其他天然ノ理窟ニ依ッテ、不通ニナクマシタモノバカリデ、日本ノ關係ニ置キマシテハ、領海内デ此海底線が惡クナリマシタ場合、ソレカラ竝ニ此止ムヲ得ズシテ、暴風其他ヲ避ケルタメニ錨ヲ下シテ、其タメニ不幸ニシテ海底線ニ中ツテ、ソレガタメニ損傷シタ例ガ、慥カ一度バカリアリマスヤウニ心得マス、併ナガラソレハ領海外ノ海上ニ於テノ場合トハ違ッテ居リマス、全ク日本ノ内地デ起リマシタ事柄ノ事實ハナイト云フノハ、唯ソレハ全ク偶然ノ事柄デアリマシテモ、事實ハアリ得ベキノデアリマスカラ、結局此罰則ヲ設ケテ置ク必要ガアル譯デゴザイマス

○委員長鯨島相政君 尙御尋ネヲ致シマスガ、現行法ニ依リマシテモ、此改正案ニ依リマシテモ、軍艦ヲ除外シテ居ルヤウデスガ、軍艦ノコトハ條約ノ第十五條ニ規定ガアリマスケレドモ、條約ノ第十五條外ニ、軍艦ガ本案第一條ノ第一項若クハ二項ノ所爲ヲ爲ストキニハ、如何ナリマスカ、ドウ云フ譯デ除外ニナツテ居ルカ、ワレヲ御尋ネ致シマス

○政府委員小松謙次郎君　軍艦ハ御承知ノ如ク、軍艦ノ行爲ノ致シマス場合ニハ、是ハ詰リ國ノ權力デ致ス譯デアリマスカラ、茲ニ適用ヲ設ケル、此中ニハドノ國デモ罰スル譯デハナカラウト思ヒマス

○委員長鰐島相政君 ソレハ平常デスガ、條約第十五條ノ場合ハ勿論ノコトデアリマスケレドモ、其第十五條以外ニ巡洋艦ガ、巡洋中ニ第一條一項二項ノ行爲ガアツタト假定スルト、不論罪ニナリマスカ

○委員長 鮫島相政君 他ノ公法デ相當ノ處分ヲシヤウト云フノデスカ
○政府委員 小松謙次郎君 ハイ

○委員長 鮫島相政君 此際私ハ政府委員ニチヨツト自分ノ意見デ、御相談ヲ致シタイト思ヒマスガ、先ニ御尋ヲ致シマシタ、此本案ノ標題ノコトニ附イ

テハ、差支ハナイ、罰則法律案トシテアツデモ、其實ハ改正ニナルノデアルガ、是ハ標題デアツテ、ドウデモ差支ナイト云フヤウナ風ノ、御答デアッタヤウデアリマスケレドモ、詰リ是ハ改正案ニ違ヒナイノデアルカラ、矢張改正案デアルナラバアルヤウニ、名義カラ正シテ掛ラヌト大變ニ面白クナイト云フ考ヲ持ッテ居リマスガ、之ヲ聯合條約罰則改正法律案トシテ、改正ト云フ二字ヲ加へ、ソレカラ中ノ方ニ於キマシテ、海底電線保護萬國聯合條約罰則トアリマスノヲ、條約ニ關スル法律、斯ウ云フ風ニ改メ、ソレカラ第二條ニ

至リマシテハイロ／＼説明ガゴザイマシタケレドモ、ドウシテモ承服致シカ子ル譯デアリマスガ、ナルナレバ是ハ一般ノ場合ト同ジク、犯罪搜索ガ困難デアルナレバ、アル程之ニハ自首減輕ト云フ法ヲ設ケタ方ガ宜カラウト思ヒマスケレドモ、是ハ單行法律デアアルシ、一種特別ノ海員ニ適用スベキ法律デアルカラ、普通ノ立法上ノ議論ノミヲ以テヤル譯ニハ往キ難イ事情モアリマセウカラシテ、此「何等ノ場合ヲ問ハス」ト云フ現行法ニ「殊ニ過失ニ依リ犯ス者ニ届ヲサセル」ト云フヤウナ風ニ折合ヲ付ケルコトガ、出來ナイト云フ御考デアアリマセウカ、是以テ別ニ是非トモニト、固執シナケレバナラヌ、固執シテ申スノデハナイ、此法律ハ明治八年カラ今日マデ一遍モ犯罪ガナイト云フ位デ、未來モ大抵想像サレル法律デアリマスカラ、普通人民ノ權利義務ニ關スル法律ノ如ク、ヤカマシク言フ譯デアアリマセヌガ、餘リ一般ノ法律ニ照ラシ合セテ、權衡ヲ失スルヤウナコトヲナスモ、如何ナモノデアラウト云フ考デアリマスガ、以上述べマシタ事柄ニ附イテ、御同意ガ出來マスカ、略々御同意ガ出來ヌ部分ガゴザイマスナラバ、一應御意見ヲ承リタウゴザイマス

○今村千代太君 今村モ同様希望ヲ致シマス
(此間速記中止ス)

○委員長鮫島相政君
ソレデハ速記ヲ始メマス

○委員長 鮎島相政君 別ニ質問モナイヤウデスカラ 審議ニ掛リマス、第一條ニハ別ニ御異議ハアリマセヌカ——然ラバ原案ニ決シマス、第二條

○今村千代太君 私ハ第二條ニ修正ヲ加ヘタイ、夫ハ「過失ニ因リ又ハ自己ノ生命若クハ船舶ヲ保護スルタメ已ムヲ得スシテ海底電線」云々ト云フコトニシテ、何等ノ場合ヲ問ハズト云フコトヲ、刪除スルノデアリマス

〔贊成贊成〕ノ聲起ル

○委員長鮫島相政君 今村君ノ修正ニ反對ガナイヤウデアリマスカラ、滿場御同意ト見テ決定致シマス、第三條

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長鮫島相政君 然ラバ原案ニ決シマス、第四條竝ニ附則ニ附イテモ、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長鮫島相政君 然ラバ原案ニ決シマス、シテ是デ閉會致シマス
午後零時三十四分閉會